

人間は考える葦

今年の京都の桜の開花予想は3月24日頃と報じられており、この西ノ岡中学校の桜のつぼみも少しずつほころび始めています。

3月15日の卒業式では、135名の生徒が本校を巣立っていきました。この先は、それぞれが自分で決めた新たなステージで自らの定めた目標に向けて躍進することを願っています。保護者、地域の皆様におかれましては、これからも人生の先輩として温かく見守りながらご指導、ご支援をいただきますようお願いいたします。



さて、3年生は、答辞の最後の一節で『正解のないそれぞれの未来に一步一步進んでいく私たち。』とっていました。

インターネットが発達した現代において、正解を見つけることは容易です。しかし、検索で見つけた正解は、決して自分の思考から生まれたものではありません。フランスの思想家であり科学者、数学者でもあるパスカルは、「人間は考える葦である」という言葉を残しています。理科の教科書にある圧力の単元で出てくる『パスカルの原理』を発見した科学者です。パスカルは、この言葉で葦という植物の中でも特別にか弱く細い存在を人間に例え、自然界における人間という個体のはかなさと、思索する偉大さを対比しています。「人間は、自然界の中では葦という植物のようにか弱い存在かもしれないが、自然界においてこれほど思索する力を持った生物はいない。だからこそ、よく考えることが大切である。」と語っているのではないのでしょうか。

未来のことは、誰にもわかりません。どのように生きていくかということは、正解のない問いに挑んでいるようなものかもしれません。だからこそ、卒業した3年生、そして、これから新年度を迎える1、2年生のみなさんにも、この先、幸福な人生を創り出せるように自分でしっかり考え、自分の意見を持ち、後悔を残さないように、毎日を力強く生きてほしいと願います。

4月からは、2年生は西ノ岡の最高学年となり、1年生は新入生の先輩という立場になります。2年生は、最高学年として自覚と責任を持って、西ノ岡の歴史に新たな1ページを創り上げてくれることを期待します。1年生は、これまでいろいろ教えてもらう立場にありましたが、4月からは新入生の良き手本となり、支えとなってくれることを期待します。

この春休みは短いですが、皆さんにとっては、節目となる大切な期間です。1年間を振り返り、新学期に臨む心構えをつくってください。

最後になりましたが、この一年間、保護者の皆様、地域の皆様には、様々な場面で本校の教育活動にご支援、ご協力をいただきありがとうございました。今後とも変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

校長 岡本 英明
学校だより春休み号